

令和 6 年度 星が丘中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

生徒一人一人の健康でたくましい身体、個性を生かした創造的な知性と技能、豊かな心、正しい社会連帯意識を養い、自己実現を通して持続可能な社会の創り手となることのできる人間を育成する。

【目指す生徒像】

- | | |
|-----------------|------------------|
| ① 気力あふれるたくましい生徒 | ② 自ら学び考える生徒 |
| ③ 進んで仕事をする生徒 | ④ 豊かな心と思いやりのある生徒 |

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

- (1) 友・先生との出会い、打ち込むものとの出会い、感動との出会いなどを大切にし、生徒の「自己肯定感」を高め、生徒にとって、かけがえのない中学校生活を謳歌できるよう指導・支援をする。「生徒がいきる」そして、「学校が楽しい」と生徒が真に思える学校づくりを目指す。
- (2) 「生徒がいきる」教育活動を推進するため、学校・保護者・地域の連携を強化し、「教師がいきる」「保護者がいきる」「地域がいきる」学校づくりを目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

今年度のスローガン 「達成感を味わおう」

教育目標や今年度のスローガンの具現化を図るため、昨年度の振り返りや学校評価・外部評価等を生かし、課題解決を図りながら、より良い学校経営に全校体制で取り組む。

(1) 確かな学力の定着

- ・ 学習指導要領に基づく「本時のねらい」を明確に示した授業の展開、ねらいに即した振り返りの実践、自らの考えを進んで表出する活動の推進、個別最適な学び、そして、宇都宮モデル（はつきり、じっくり、すっきり）の各過程の指導の資質向上を図ることにより確かな学力の定着を図る。
- ・ 協働的な学びの実践、A I ドリルの活用等を通して、課題解決的な学習や探究活動の充実を図り、多面的に考え、自らの考えを進んで表出する生徒を育成する。

(2) 心の教育の推進（豊かな人間性の育成）

- ・ 心に響く道徳の授業（考えさせ議論する指導を充実）、読書活動、あいさつ運動、人権教育、国際理解教育、福祉教育等の充実を図り、教育活動全体を通して、やさしさと思いやりにあふれた心の教育を推進する。
- ・ 学校行事、部活動、体験活動における主体的な活動を通して達成感を味わわせ、粘り強さや社会性を育む。
- ・ 生徒会活動、学級活動、班活動等における主体的な活動を通して達成感を味わわせ、自治の意識を高める。

(3) 生徒指導の充実

- ・ 生徒とのコミュニケーションを重視し、信頼関係の構築に努める。
- ・ 規範意識の高い学級経営を推進し、差別、偏見、いじめ等を許さない安全・安心な学校づくりに努める。
- ・ 生徒の自主・自律の精神を培うために、「育てる生徒指導」（自己教育力・自己肯定感の育成、デジタル・シティズンシップ教育）の推進を図る。
- ・ 問題行動の未然防止、早期発見、解決に向けて、家庭や他機関との連携を図りながら、組織的な取組を推進する。
- ・ 集団づくりと授業づくりを相互に関連させながら指導する「学業指導」の充実を図る。
- ・ 帰属意識を高める学級経営、一人一人の実態に配慮した授業の工夫を通して、不登校の未然防止を図る。
- ・ 情報モラル教育及びデジタルシチズンシップ教育の更なる充実を図り、SNSトラブル等の未然防止を図る。

(4) 健康・体力の向上

- ・ 食育の充実と心身ともに健康的な生活を送るための指導の充実を図る。
- ・ 新体力テストの結果を活用し、課題を明確にとらえてその解決を図るとともに、進んで運動に取り組む態度の育成を図る。
- ・ 交通ルール遵守をはじめ、安全・安心の確保に向けた指導体制の強化を図る。

(5) 特別支援教育と教育相談の充実

- ・ 生徒一人一人のニーズに対応した教育支援の充実が図れるよう、校内特別支援委員会・教育相談部会等の機能を生かして組織的に取り組む。
- ・ 不登校の防止や解消、生徒一人一人の悩みの解消と明るい学校生活を実現するために、教育相談の意図的・計画的な実施と教職員のスキルの向上を図る。
- ・ SC、MSとの連携の更なる充実を図るとともに、関係機関との連携も強化し、一人一人に応じた対応に努める。

(6) キャリア教育の充実

- ・ キャリアパスポートの活用を通して、将来の生き方を考え適切な進路を選択する能力を育てる。
- ・ 社会体験学習等を充実させ、望ましい勤労観・職業観を育むとともに、生徒が自己の適性を探求し、職業を通して社会に貢献しようとする意欲を培う。

(7) 家庭・地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進

- ・ 家庭や地域社会との連携と、地域の教育力を生かした地域と共にある学校づくりに努める。

(8) 教職員の使命感と資質の向上、働き方の意識向上

- ・ 時代や生徒、保護者のニーズに応えるため、教職員としての使命を深く自覚し、協働体制のもとに各自の強みを生かすとともに資質の向上に努める。
- ・ 働き方改革を推進して業務の適正化に努め、健康と安全管理に配慮する。
- ・ 生徒の変化に敏感に気づけるよう、観察力を高める。

[星が丘地域学校園教育ビジョン]

未来を見つめ、主体的に生き抜く力の育成
～認め合い、学び合い、高め合う児童生徒を育てる取組を通して～

4 教育課程編成の方針

令和4年度からの3か年に渡る校舎の長寿命化改修工事においても変わらぬ教育機会の確保とコロナ禍で縮小を余儀なくされた学習機会や特別活動の回復に努めるとともに、持続可能な社会の創り手の育成を目指し、SDGsに係る学びを特別活動や総合的な学習の時間を中心に教科横断的に行い、さらに地域と連携し地域の教育力を活用できるよう教育課程を工夫する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

- 自分で考え、判断し、行動させることを通して達成感を味わわせる学校経営の推進

【重点項目】

- ①夢や目標に向かって、粘り強く取り組む態度の育成（やり抜く心、達成感）
- ②学習意欲と学力の向上（自ら考え、進んで発言させる工夫、コミュニケーション能力を育成する授業の推進）
- ③安全・安心な学校づくり（心身の健康と危険予測・回避能力の育成、規範意識の高い学級経営の推進）
- ④不登校対策（帰属意識を高める学級経営、一人一人の実態に配慮した授業の工夫）
- ⑤教職員研修の充実（観察力・学級経営力の向上）
- ⑥地域との連携強化（地域の教育力の積極的な活用）

(2) 学習指導

- ・ 多面的に考え、自らの考えを進んで表出する生徒の育成

- 本時のねらいを共有し、意欲をもって学ぶ生徒の育成

(3) 生徒指導

- ・ 心豊かで思いやりがあり、粘り強くやり抜く生徒の育成

- 価値のある称賛と励ましを通して、自己肯定感や誇りを持てる生徒の育成

(4) 健康（体力・保健・食育・安全）

- 自己の健康、体力の状況を理解し、進んで健康、体力の向上に励む生徒の育成

- 食への関心を持ち、健康的な食事の在り方を自ら考え、実践できる生徒の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価

1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・生徒が主体的に学習に取り組み、深い学びにつながるよう、学習のめあての提示、振り返りの実施 ・教材・教具の工夫、生徒用タブレットの有効活用 ・ICT 支援員による授業実践	B 【達成状況】 生徒 87.9%、教職員 97.9%、保護者 88.0%とすべて 80%以上を達成している。 【次年度の方針】 学習のめあての提示や教材・教具の工夫、タブレットを用いての協働的な学習など、生徒が主体的に学習に取り組む授業を工夫し、深い学びにつなげる。
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・他との関わりを多面的・多角的に考える授業の実践 ・「思いやり」を題材にした道徳授業の実践 ・日常生活での思いやりの行動の推奨	B 【達成状況】 生徒 91.0%、教職員 87.5%、保護者 93.5%、地域住民 92.3%とすべて 80%以上を達成している。 【次年度の方針】 道徳科の授業での各自の考えを議論する場面において、思いやりについて深く考えさせることを継続して指導していく。また、日頃の学校生活においても、思いやりのある言動がとれるよう指導支援に努める。
	A 3 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・学年に応じたキャリア教育の推進 ・学級活動や学校行事、部活動等における指導（達成可能な細かな目標の設定及び実践による自己有用感の高揚）	B 【達成状況】 生徒 80.9%、教職員 87.5%、保護者 86.6%とすべて 80%以上を達成している。 【次年度の方針】 学校行事、部活動等を通して粘り強く目標に取り組めるように支援する。達成可能な細かな目標設定をするなど、達成感や自己有用感につなげる工夫を継続的に行う。
1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・家庭科や保健体育科での発達段階に応じた指導 ・給食指導、生徒会活動、外部講師を活用した健康教育の実践 ・各種たよりを通じた生徒・保護者への啓発 ・交通安全教室、避難訓練、登下校指導の実施	B 【達成状況】 生徒 88.3%、教職員 85.4%、保護者 89.8%、地域住民 100.0%とすべて 80%以上を達成している。 【次年度の方針】 教科指導や給食指導、外部講師による講話、生徒会活動などを通じて健康教育を実施し、実生活で健康や安全に関する適切な行動がとれる力を育む。また、交通安全教室や避難訓練、日々の安全教育を通じて、安全意識の向上に努める。
1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・生徒一人ひとりにとって、居がいのある学級経営の実践 ・学校行事や学級活動における役割分担など、一人一人の自己有用感につなげる活動の実践 ・些細なことを含めた生徒の成長に対する称賛	B 【達成状況】 生徒 87.5%、教職員 89.6%と概ね達成できている。 【次年度の方針】 生徒同士で認め合えるような関係づくりを学級・学年で行う。
2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・コミュニケーション力を高める学習活動を多く取り入れた英語の授業の実践 ・ALT との積極的な交流の推進	B 【達成状況】 生徒 74.0%、教職員 91.7%であるが、生徒は英語科の授業でのスピーキングやALT と自由に話すなど積極的に交流している。 【次年度の方針】 生徒はある程度の英会話ができているが自信がない。英語科の授業において、ALT のさらなる活用とコミュニケーション能力をさらに高める学習活動を継続し、英会話に対する自信を高められるよう指導していく。

	A 7 児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・「宇都宮学」の学習を中心とし、総合的な学習の時間の指導の充実 ・地域との連携と、その教育力の活用	【達成状況】 生徒 78.0%, 教職員 83.3%, 保護者 79.9%であった。80%以上には届かないが、すべて昨年度より上昇している。 B 【次年度の方針】 「宇都宮学」を中心とした、総合的な学習の時間を通して、生徒が郷土への愛情と誇りをさらにもてるよう継続して指導していく。
2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・タブレット端末の積極的な活用（授業・学校行事・専門委員会等） ・タブレット端末の効果的な活用例の共有 ・授業での図書室の活用 ・図書選定委員会を開催しての計画的な図書の整備 ・必要な資料等の市立図書館や地域学校園内の学校からの借用	【達成状況】 生徒 69.9%, 教職員 95.8%, 保護者 74.8%であった。長寿命化工事により図書室の閉館期間が長かったため、十分な活用ができなかった。 B 【次年度の方針】 タブレットの使用は日常的になっている。図書室の利用率も上げていくため、授業での活用だけでなく、休み時間に利用したくなるような取組を考えて実践する。
2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A 9 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・総合的な学習の時間における「持続可能な社会」についての学びの継続 ・「持続可能な社会」につながる活動を意識させての委員会活動の実践 ・学習発表会における生徒会専門委員会による実践発表	【達成状況】 生徒 69.9%, 教職員 72.9%と両者とも 80%以上には届かなかった。 B 【次年度の方針】 総合的な学習の時間における学年の年間指導計画に組み入れられ指導しているが、生徒会の委員会の活動においても「持続可能な社会」につながる活動を意識させて実践する。
3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A 10 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・特別な支援が必要な生徒の個別の支援計画の作成と活用 ・特別支援コーディネーターを中心とした支援体制の確立（かがやきルーム、ステップアップルーム等の特別支援資源の有効活用） ・教育相談部会、校内支援委員会等における情報の共有化と迅速な対応 ・本人・保護者の要望への対応や学校生活に必要な支援の充実	【達成状況】 教職員 97.9%。概ね達成できている。 B 【次年度の方針】 かがやきルームのニーズが増えてきている。授業者とかがやき担当職員との連携が取れているので、継続したい。 配慮を要する生徒についての研修（5月）は、共有する情報をより詳しいものにする。 個別の支援計画の作成は大変だが、有効活用できるようにする。
3- (2) いじめ・不 登校対策の 充実	A 11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・生徒指導部会を中心とした情報交換と迅速な対応 ・いじめを扱った題材や人権に配慮した道徳の授業の充実 ・「学校生活アンケート」（年間4回）による現状把握といじめ早期発見、早期対応	A 【達成状況】 生徒 93.7%, 教職員 100.0%, 保護者 80.2%, 地域住民 84.6%であり、保護者がボーダーである。 【次年度の方針】 道徳の授業や様々な活動を通して、思いやりの心をもつことの大切さを学ばせたい。生徒指導だより等を活用し、保護者、地域に取り組みの発信を行う。 アンケートの結果を受けてからの対応ができたので、次年度も継続したい。
	A 12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・生徒一人ひとりにとって、居がいのある学級経営の実践 ・宮っ子ダイアリーや教育相談週間を活用し、生徒の悩みごとなどの把握 ・教育相談部会における情報の共有化、支援 ・新たな不登校を生まないための未然防止と「ステップアップルーム」での登校支援の充実	B 【達成状況】 生徒 93.7%, 教職員 100.0%, 保護者 89.5%と概ね達成できている。 【次年度の方針】 ステップアップルームの本来の目的や手続きの流れを見直し、教職員の共通認識の下で慎重に運用を進める。

3- (3) 外国人児童生徒等への 適応支援の 充実	A13 学校は、一人一人が大 切にされ、活気があり、 明るくいいきとした雰 囲気である。 【数値指標】 肯定的回答80%	・生徒一人一人が活躍できる場を設 定するとともに、生徒の自発的・自 治的活動を促す学級活動の実践 ・宮っ子ダイアリーや教育相談週間 の活用による、生徒の悩みごとなど の把握 ・外国人生徒の日本語の力に応じた 日本語指導の実践 ・必要に応じた関係諸機関との連携	B 【達成状況】 生徒 93.7%, 教職員 97.9%, 保護者 89.1%, 地域住民 100.0%と概ね達成でき ている。 【次年度の方針】 学級活動等において、生徒一人一人が 活躍できる場を設定するとともに、生徒 の自発的・自治的活動を促す。教育相談 機能の充実に図り、生徒の悩み等の早期 発見・早期解決に努める。
4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業 や生徒にきめ細かな指導 を行い、学力向上を図っ ている。 【数値指標】 肯定的回答80%	・ねらいを明確に、振り返りを確実に 行う「分かる授業」の実践 ・授業の中で生徒が達成感を味わい、 自己肯定感を高められる言葉かけ の充実 ・ICTの効果的な活用 ・数学科や英語科におけるチーム ティーチングや習熟度に応じたき め細やかな指導の充実	B 【達成状況】 生徒 90.8%, 教職員 100.0%, 保護者 80.2%と概ね達成できている。 【次年度の方針】 ねらいを明確にした授業を実践し、分 かる授業に努め、生徒に達成感を味わわ せることで、自己肯定感を高めていく。 ICTの効果的な活用を図り、数学科や 英語科では、習熟度に応じたきめ細やか な指導を充実させる。
4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員 がチームとなり、協力し て業務に取り組んでい る。 【数値指標】 肯定的回答80%	・「チーム星が丘」の力を最大限に生 かすための、多様なスタッフとの連 携の強化 ・全教職員の共通理解に基づく組織 的な対応	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答割合、97.9%と良 好である。教職員が同一方向を向き、連 携・協力を図りながら取り組んでいると 考える。 【次年度の方針】 管理職のマネジメントのもと、教職員 の連携・協力を強め、情報の共有化を徹 底するなど効率よく業務を遂行する。
4- (3) 学校におけ る働き方改 革の推進	A16 勤務時間を意識して、 業務の効率化に取り組ん でいる。 【数値指標】 肯定的回答80%	・教職員の意識改革の推進 ・月1回のリフレッシュデーの設定 ・業務の精選・見直し ・部活動基本方針に基づく効率的な 活動と休業日の設定 ・勤務時間管理による長時間勤務の 改善とワークライフバランスの見 直しの推進	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答割合は 72.9%で あり、80%を下回っている。 【次年度の方針】 教職員一人一人が勤務時間の管理に 努めるとともに、教育課程編成の工夫や 日課表の改善による放課後の時間の確 保、部活動指導環境の改善など組織とし て業務の効率化に注力する。
5- (1) 全市的な学 校運営・教 育活動の充 実	A17 学校は、「小中一貫教 育・地域学校園」の取組 を行っている。 【数値指標】 肯定的回答80%	・地域学校園の全体研修や各部会・分 科会の充実 ・小中一貫カリキュラムに関する取 組の充実 ・5教科と保健体育科での乗り入れ授 業の実施 ・小中合同あいさつ運動 ・地域学校園の取組を全校生徒へ知 らせる工夫	B 【達成状況】 生徒 82.8%, 教職員 85.4%, 保護者 87.2%, 地域住民 91.7%と概ね達成でき ている。 【次年度の方針】 「小中合同あいさつ運動」、「小6生の 進学先中学校訪問」、「仲良し給食」、「地 域学校園図書室だより」などの取組を全 校生徒へ知らせる工夫を行う。
5- (2) 主体性と独 自性を生か した学校経 営の推進 5- (3) 地域と連 携・協働し た学校づく りの推進	A18 学校は、家庭・地域・ 企業等と連携・協力して、 教育活動や学校運営の充 実を図っている。 【数値指標】 肯定的回答80%	・地域協議会との連携の強化 ・学校ボランティア、地域の学習資 源、地域人材を活用した講演会等の 活動の充実 ・地域・企業と連携した「地域の方々・ 先輩・専門的な知識を持つ方に学 ぶ」授業の実施 ・各種便りや学校HPによる積極的 な情報発信 ・「宮っ子ダイアリー」を活用しての家庭 との連絡	B 【達成状況】 生徒 71.1%, 教職員 100.0%, 保護者 88.5%, 地域住民 85.7%であった。生徒 は、80%を下回っている。 【次年度の方針】 生徒会を中心に、地域ボランティアの の方々への感謝を示す機会や、地域の方と 一緒に地域の公園清掃を行う機会を設 定する。また、「宮っ子チャレンジ」や 「働く人に学ぶ」などの行事について、 保護者会、三者懇談、学校行事等に加え、 各種便りや学校HPを利用して積極的に 情報を発信し、家庭・地域との連携を 密にしていく。

6-(1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 肯定的回答80%	・日常的な点検と月1回の安全点検の実施 ・自然災害時等の臨時の安全点検の実施 ・各種業者による施設点検 ・修繕箇所への迅速な対応 (※5項目目削除済み)	【達成状況】 教職員 93.8%, 保護者 92.5%, 地域住民 100.0%と概ね達成できている。 【次年度の方針】 日常点検や安全点検、自然災害時の臨時点検を継続し、迅速な修繕対応を強化する。また、情報発信を充実させ、地域や保護者との連携を一層深めて、より安全な環境づくりを推進する。
6-(2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 肯定的回答80%	・ICT支援員による生徒用タブレットの診断 ・ICT支援員と連携した教材の開発や情報交換 ・ICT機器の効果的な活用の仕方についての情報共有	【達成状況】 教職員 91.7%で数値指標を達成している。 【次年度の方針】 ICT支援員のさらなる活用を図り、教職員の支援だけでなく、授業中の生徒への支援もいただき、授業をさらに充実させる。
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 肯定的回答80%	・生徒会を中心としたあいさつ運動の充実 ・教員の率先垂範によるあいさつの励行	【達成状況】 生徒 96.1%, 教職員 93.8%, 保護者 91.3%, 地域住民 92.3%と概ね達成できている。 【次年度の方針】 教員が率先垂範してあいさつをするとともに、引き続きあいさつ運動を生徒会主体で考えていく。
	B2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 肯定的回答80%	・全職員の共通理解のもとでの継続指導 ・生徒自らが考えるマナーアップの方策を手助けする体制の整備 ・5分前行動・2分前着席の徹底	【達成状況】 生徒 94.4%, 教職員 75.0%, 保護者 90.4%, 地域住民 83.3%と生徒の達成状況が、教職員から見て実態に見合っていないと思われる結果となった。 【次年度の方針】 生徒自身が考えた「私たちの約束」を教職員の共通理解のもと指導していく。5分前行動・2分前着席についても、全学年で合わせた指導を行う。令和6年度に作成した「きまりやマナーについて」の全体授業を今後も継続して行っていく。
	B3 生徒は、授業や部活動などで一人一人が課題をもって体力の向上に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答80%	・保健体育の授業や部活動における投力の育成を意識した授業の実践 ・ICT活用による問題解決機会と振り返り時間の確保	【達成状況】 生徒 88.3%, 教職員 87.5%, 保護者 89.8%, 地域住民 92.3%と概ね達成できている。 【次年度の方針】 保健体育科の授業や部活動指導においてICTを積極的に活用し、動きを視覚的に把握させることで、自己の課題を明確化し、問題解決力を育成して体力の向上につなげる。
	B4 生徒は、学習の目的やねらいがわかり、自ら進んで考えを発表している。 【数値指標】 肯定的回答80%	・毎時間のねらいの提示 ・生徒に目標や見通しを持たせた授業の展開 ・生徒の発言を大切に扱うとともに、まちがいを恐れずに発言できる学級の雰囲気作り ・タブレット端末を活用した意見交換等による自分の考えを表出する活動の実施	【達成状況】 生徒 66.4%, 教職員 85.4%, 保護者 77.0%, 地域住民 90.0%であった。生徒、保護者が、80%を下回っている。 【次年度の方針】 生徒自身が見通しを持って授業に取り組めるようにねらいの提示を工夫する。また、日頃から生徒の発言を大切に扱うとともに、発言しやすい学級の雰囲気作りに努める。授業等でタブレットを活用し、意見交換や自分の考えを表出する活動を充実させる。

B 5 教職員は、あいさつや対応が丁寧である。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・教職員自らの先行あいさつの実施 ・相手の立場や気持ちになったの丁寧な対応（人権を意識した行動・発言） ・教職員同士の連携の深化	【達成状況】 生徒 91.0%, 教職員 95.8%, 保護者 91.6%, 地域住民 100.0%と概ね達成できている。 【次年度の方針】 教職員一人一人が保護者、来校者へ積極的にあいさつや声掛けをし、学校として温かく迎える雰囲気をつくる。
B 6 教職員は、一貫性・公平性のある生徒指導を基にして、生徒の規範意識を高めている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・生徒指導部会等での情報交換等による生徒の的確な把握と早期対応 ・部会記録を回覧するなど共通理解を図ることによる全校体制での公平かつ一貫した生徒指導の実践	【達成状況】 生徒 89.7%, 教職員 95.8%, 保護者 83.8%, 地域住民 100.0%と概ね達成できている。 【次年度の方針】 生徒の状況についての的確な把握と早期対応に努めるとともに、引き続き組織で対応することを心がける。
B 7 生徒は自分の良さに気づき、自己肯定感をもって学校生活を送っている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・生徒相互が学び合い認め合う場の設定と、生徒の自己肯定感を高める指導力の向上 ・生徒が自己肯定感を高められる言葉かけの充実	【達成状況】 生徒 75.7%, 教職員 83.3%, 保護者 85.5%, 地域住民 80.0%と概ね達成できている。 【次年度の方針】 学校生活全般において、生徒が互いの良さを認め合えるような雰囲気づくりに努める。自己肯定感を高めていけるよう、活躍の場を多く設けるように努める。
B 8 生徒は、SDGsに係る取組を実践している。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・総合的な学習の時間での学年ごとの取組の実践 ・生徒会各委員会でのSDGsに係る取組の実践及び放送や集会等による発表	【達成状況】 生徒 63.7%, 教職員 77.1%, 保護者 76.6%, 地域住民 88.9%と、ほぼ肯定的回答を下回っている。 【次年度の方針】 総合的な学習の時間を活用し、知る・学ぶ・活用する取組を継続して行う。また、生徒会各委員会でSDGsに関わる活動に取り組んだり、校内掲示を充実させたりなど、生徒が自分にできることを考えられるように指導する。
B 9 生徒は、交通ルールを守り、登下校時の安全に努めている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・教職員による月1回の登校指導 ・毎週水曜日の一斉下校時や部活動終了時の下校指導 ・交通安全教室の実施 ・生活委員会による安全な下校の呼びかけ	【達成状況】 生徒 96.3%, 教職員 68.8%, 保護者 84.8%, 地域住民 84.6%と生徒の達成状況が、教職員から見て実態に見合っていないと思われる結果となった。 【次年度の方針】 交通ルールを守るよう指導を継続するとともに地域の協力を得ながら登下校時の安全に努めていく。自転車通学者の集会を定期的に関き、交通ルールを遵守するよう指導する。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・評価に関する数値指標は29項目中20項目が達成されており、おおむね良好な状況である。
 - ・長寿命化工事が終わり、7月以降は新校舎での学校生活を送ることができた。学校行事などは、生徒会が中心となり生徒主体で進めることができた。その結果、生徒の自己肯定感が高まった。
 - ・次の3つの質問項目、「A3 目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組む」「A16 勤務時間の意識」「A19 安全に配慮した環境づくり」に関しては、肯定的回答が前年度より5ポイント以上上がった。今年度の達成状況を踏まえて、今後も継続した取組を実施していきたい。
 - ・次の4つの質問項目、「A9 持続可能な社会への関心」「B2 きまりやマナー」「B8 SDGsに係る取組の実践」「B9 登下校の交通ルール」に関しては、市平均に比べて低い項目であった。
 - ・「B2 きまりやマナー」「B9 登下校の交通ルール」に関しては、生徒の達成状況が、教職員から見て実態に見合っていないと思われる結果となった。
- 小中一貫教育については、生徒の肯定的回答が他に比べて低く、活動ができるようになってきてはいるが、一部の生徒のみがかかわる活動が多いことや全校生徒へ周知する広報活動の不足が考えられる。
- 地域学校園・地域の諸行事においては、今年度は多くの実施があり、生徒がボランティアとして活動する場が戻ってきた。過去に携わった内容の引継ぎを行っていくことが教職員間でも必要になってくる。

7 学校関係者評価

- ・地域の行事に生徒たちがボランティアとして参加してもらって大変助かっている。
- ・小学生に対しても面倒見がいい場面を見かけることがあった。また、あいさつも元気にしてくれている。
- ・あいさつについては、評価が高く日頃のご指導のたまものとする。登下校時の路上でのあいさつは難しいが、顔見知りの大人へのあいさつを積極的にしてもらえよう、地域住民として声かけを続けたい。
- ・「A3 目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組む」については、数年前はから改善されているようで良かったと思う。先生方のご指導のおかげだと思う。
- ・「A7 宇都宮のよさを知っている。」の生徒の肯定的回答が8割を下回っていることが心配です。
- ・交通ルール（自転車の乗り方）については、大人でもよく理解していないと思うので、交通安全集会の実施は良いと思う。また、運転免許のようにルールテストなどをやってみることも良いと思う。
- ・「B2 きまりやマナー」については、生徒自身が考える「私たちの約束」について、とても良い試みだと感じた。あいさつやきまりなどは、生徒が納得し身に付けられるようになってほしいと思う。また、「SDGsに係る取組の実践」には、大いに期待している。星中の頑張りや、地域に広がるような活動になるといいと思う。
- ・「B2 きまりやマナー」については、本校でも児童と教職員の認識に差があり課題だと感じている。「きまりやマナー」の共通理解を図る必要があると思っている、中学校のきまりに合わせた指導を小学校のうちからできるよう「私たちの約束」を小学校にも教えてほしい。
- ・「B8 SDGsに係る取組の実践」では、学校の授業と違う学びで家庭でも取り組んでほしいと思う。家庭でも取り組めるくらい身近にできることを見つけてもらいたいと思う。
- ・生徒、教職員、保護者の回答で、15ポイント以上差がある項目については、その理由について吟味する必要がある。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・学校評価の結果、全体的に良好な状況であり、生徒の自己肯定感も高まっていることが分かった。しかし、課題も見つかった。「A9 持続可能な社会への関心」「B2 きまりやマナー」「B8 SDGsに係る取組の実践」「B9 登下校の交通ルール」に関しては、今後、具体的な取り組みを行う必要があると考える。また、小中一貫教育や地域連携活動については、参加生徒の偏りや広報不足が課題として考えられる。これらの課題を踏まえ、今後以下の具体的な取組を行っていく。
 - ・「A9 持続可能な社会への関心」「B8 SDGsに係る取組の実践」については、総合的な学習の時間における指導だけではなく、生徒会各委員会の活動においても「持続可能な社会」につながる活動を意識させるとともに、SDGsに関わる活動に取り組み、校内掲示を充実させたりするなど、生徒が自分にできることを考えられるよう指導していく。
- 「B2 きまりやマナー」については、生徒自身が考えた「私たちの約束」を教職員の共通理解のもと指導するとともに、5分前行動・2分前着席についても、全学年で合わせた指導を行う。令和6年度に作成した「きまりやマナーについて」の全体授業を今後も継続して行っていく。
- ・「B9 登下校の交通ルール」については、交通ルールを守るよう指導を継続するとともに地域の協力を得ながら登下校時の安全に努めていく。さらに、自転車通学者の集会を定期的に関き、交通ルールを遵守するよう指導を行っていく。
 - ・今回の評価結果を踏まえ、生徒一人ひとりの成長をサポートできるよう、学校に関わる職員全員が同一方向を向き、連携・協力を図りながら取り組んでいく。そして着実な取組を実践することで、更なる学校教育の充実を目指していく。